

平成22年度

事業報告書

社会福祉法人 尾鷲市社会福祉協議会

目 次

目次・事業総括	1～2
I 企画調整部門	
1. 総務係	3～9
2. 地域福祉係	10～20
II 総合相談・支援部門	
1. 尾鷲市地域包括支援センター	21～27
2. 紀北障がい者総合相談支援センター	28～36
III 介護サービス部門	
1. 居宅介護支援事業所	37～38
2. 訪問介護事業所	39～41
3. 訪問入浴事業所	42
4. 尾鷲社協デイサービスいきいき	43～45
5. 通所介護事業所	46～47
IV 輪内高齢者サービスセンター	48

平成22年度 事業総括

景気の減退や介護保険事業の厳しい状況の中で、本会の運営や事業は大きな影響を受けていますが、関係機関・団体との連携を強化し、地域福祉推進のため事業計画に基づいた事業を積極的に実施しました。地域福祉係は、新規事業として地域に住む子育て世代の住みやすい街づくりをめざすために、子育て関係団体と連携を諮り、子育てグッズの無料レンタルや子育て応援のための用品のリサイクル事業を行いました。また、福祉保健センターの3階児童コーナーの自由開放や子育てをしている親子のための講座や映画会等を開催しました。

共同募金運動では、新たな取り組みとして、地区福祉委員会の方々による先進地視察の実施、世代間の交流に対する助成事業に、自治会や区の地域活動費として6団体の助成を行いました。

また学校募金を児童・生徒とともに考え、運動会において募金箱を設置して募金を呼び掛けるなど、目標額を越える実績を上げております。

防災対策として、三重県・三重大学が紀州地区で開催したみえ防災コーディネーター養成講座に2名参加し、体制を充実させています。

特に23年3月11日の東日本大震災には当地区においても津波警報の影響により、尾鷲市福祉保健センターには市内の避難者103人(最大)、JR南紀特急乗客39人の帰宅困難者が避難し、職員25名が交代で2日間避難者の対応にあたりました。

本センターは深夜電力を使用したエコアイスになっており、夜間の冷暖房が利用出来なくなる等、課題もありましたが市行政と連携し対応しました。

地域包括支援センターは、認知症高齢者等誰もが安心して住める街づくりをめざして様々な取り組みをしました。

特に今年度は認知症が原因により徘徊する高齢者を地域で見守ることができるよう、ニーズの把握を行い、関係機関との連携をすすめ、ネットワーク構築の準備を行いました。

紀北地域障がい者総合相談支援センターは、5部会制度(知的、精神、身障、就労、療育)を見直し、障がい者自身の意見を反映できるように体制を整えるため、運営部会を立ち上げ、関係機関と連携しながらプロジェクトの実施を行いました。

支援学校卒業後の日中の居場所作りとして、人とのふれあい、就労体験サロンのために「はあと畑」の立ち上げに協力しました。

介護保険事業においては、在宅でいつまでも安心して暮らしていけるよう、職員・職場のレベルアップを図るために、研修はもとより、職員会議、ケース会議の充実に努めました。特にデイサービスいきいきでは、ADL(日常生活動作)が低い方にも安全・快適に利用できるように環境整備(手すり等の設置)を図りました。

しかしながら、利用者および利用回数の減少により、赤字の解消には至っておらず今後も経営改善に努力致します。

輪内高齢者サービスセンターでは、市から委託を受けた輪内地区食の自立支援事業利用者32名に対し年間3,607食、自主事業のあったか弁当は、梶賀地区で年間264食を配食しました。

このような中で役職員一丸となって次のような事業をおこなったので、報告いたします。

I 企画調整部門

1 総務係

1. 会務の運営

社協の適正な法人運営と事業の円滑な推進を図るため、次のとおり役員会等を開催した。

(1) 理事会の開催

第1回 平成22年 4月 1日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者12名

- ①会長、副会長の選任について
- ②常務理事の選任について

第2回 平成22年 5月27日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者12名

- ①平成21年度事業報告書(案)について
- ②平成21年度決算報告書(案)について
- ③平成22年度第1回補正予算書(案)について
- ④定款の一部変更について
- ⑤就業規則等の一部変更について
- ⑥評議員の一部変更について

第3回 平成22年10月28日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者 9名

- ①平成22年度第2回補正予算書(案)について
- ②規則等の廃止、施行及び一部変更について
- ③評議員の一部変更について

第4回 平成23年 1月27日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者 8名

- ①平成22年度第3回補正予算書(案)について
- ②評議員の一部変更について

第5回 平成23年 3月25日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者10名

- ①平成22年度第4回補正予算書(案)について
- ②平成23年度事業計画書(案)について
- ③平成23年度当初予算書(案)について
- ④就業規則等の一部変更について

(2) 評議員会の開催

- 第1回 平成22年 5月27日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者21名
①平成21年度事業報告書(案)について
②平成21年度決算報告書(案)について
③平成22年度第1回補正予算書について
④定款の一部変更について
⑤就業規則の一部変更について
- 第2回 平成22年10月28日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者21名
①平成22年度第2回補正予算書(案)について
②規則等の廃止、施行及び一部変更について
- 第3回 平成23年 1月27日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者22名
①平成22年度第3回補正予算書(案)について
②理事・監事の一部変更について
- 第4回 平成23年 3月24日 尾鷲市福祉保健センター4階 出席者17名
①平成22年度第4回補正予算書(案)について
②平成23年度事業計画書(案)について
③平成23年度当初予算書(案)について
④就業規則等の一部変更について

(2) 監事監査

- ①平成22年5月11・12日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成21年度の事業及び決算についての監査
- ②平成22年7月27日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成22年度4月～6月 定期会計監査
- ③平成22年11月 4日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成22年度7月～9月 定期会計監査
- ④平成23年3月 3日 尾鷲市福祉保健センター 監事2名
平成22年度10月～12月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ①平成22年7月23日 三重県法人指導監査
②平成23年1月24日 財政援助団体等監査
(尾鷲市監査事務局)

2. 事務局体制の強化

(1) 事務局体制の強化

正規職員 1名登用試験を行った。
嘱託職員 6名登用・採用試験を行った。

(2) 職員の処遇改善

職員の育児休業、育児のための所定外労働の免除及び育児短縮勤務に関する規則、介護休業、介護のための深夜業の制限及び介護短縮時間に関する規則を施行し、また嘱託職員の雇用等に関する就業規則、日額・時給職員等の雇用に関する就業規則を改正し、職員の労働条件を向上させた。

(3) 人材育成の観点から福祉関係資格取得を奨励するとともに、各種研修会へ参加させ職員の資質向上を図った。

①資格取得の状況（新規）

介護支援専門員	1名
介護福祉士	1名

②研修会への参加と開催

- ・ 県社協の実施する役職員セミナーや専門、職種別研修会に積極的に参加した。
- ・ 社会福祉従事者としての自覚、使命感を育て問題解決能力を養うための自己啓発の促進として、下記の経験や役職に応じた体系的な研修に参加した。

新任職員研修	1名
中堅職員研修	5名
指導的職員研修	1名
みえ防災コーディネーター育成講座	2名

(4) 事務の効率化

文書処理簿、時間外勤務などのパソコン処理化
会計・給与ソフトの各事業所間のオンライン化。
公用車のリース、車検等の見直し
公用車駐車場の見直し

(5) 定款、規則等の廃止、施行、改正を行い、活動基盤の充実に努めた。

- ・ 定款の変更
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会施行細則の廃止
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会職員の育児休業及び育児短時間勤務に関する規則の廃止
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会職員の介護休業及び介護短時間勤務に関する規則の廃止
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会定款細則の施行
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会職員の育児休業、育児のための所定外労働の免除及び育児短縮勤務に関する規則の施行
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会職員の介護休業、介護のための深夜業の制限及び介護短縮勤務に関する規則の施行
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会職員就業規則の改正
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会嘱託職員の雇用等に関する規則の改正
- ・ 尾鷲市社会福祉協議会日額・時給等職員の雇用に関する規則の改正

3. 災害時における避難者安全確保体制と資機材の確保（各係協働）

(1) 災害発生時の対応

3月11日（金）に発生した東日本大震災による津波警報が当市にも発表され、避難勧告が発令された。福祉保健センターと輪内高齢者サービスセンターに避難所を開設し、避難者の受け入れを行った。また鉄道の復旧が見込まれないため、帰宅困難者についても受け入れた。

避難者 105名（内、輪内高齢者センター 2名）

帰宅困難者 39名（南紀特急乗客）

職員体制 25名（交代勤務）

時間 警報解除の翌日3月18日（土）21時30分まで待機する。

(2) 避難所閉所後の対応

資機材の確保：福祉保健センターは深夜電力によるエアコンを使用しているため、夜10時以降は暖房が効かなくなった。災害用に備蓄してある毛布を避難者に配布して寒さを耐えたが、冬場の避難所設置に備えて向けて石油ストーブを購入した。

また、福祉保健センターが避難所であることを示す看板を希望通り側と商店街側に設置することを決定した。

義援金の募集：共同募金会尾鷲支会として東日本大震災義援金の受付を市行政とともにやっている。期間は平成23年度9月30日まで募集する。

義援金総額：2744万2788円（平成23年3月31現在）

職員派遣：県社協の要請により、県内の市町社協とともに、平成23年度4月に職員を岩手県大槌町に派遣することを決定した。

その他：随時、被災者支援のための情報収集を行っており、県社協と協力する体制を取っている。災害ボランティアの登録についても地域福祉係ボランティアセンターで検討している。

3. 地域福祉財源の確保

- (1) 域福祉事業推進のため公的助成の確保に努めた
- (2) 自主財源の確保

①善意銀行の運営

市民の善意により次のとおり、現金物品が寄贈された。

現金：	一般預託	12件	511,900円
	指定預託	12件	537,537円
	合計	24件	1,049,437円
	※前年度合計	36件	2,005,898円
物品：	座卓5台、足踏み台2台		

4. 福祉団体活動支援

- (1) 老人クラブ活動の推進と支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに 社会奉仕活動への 積極的な参加促進を支援した。

- ①老人クラブ連合会活動の支援 32クラブ・会員数 1,936人
- ②老人の社会奉仕活動への参加促進の支援
- ③高齢者友愛訪問活動への支援
- ④尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催

年 度	講 座 数	延べ参加人数
平成20年度	10講座	3,219名
平成21年度	9講座	2,943名
平成22年度	9講座	3,229名

- (2) 遺族会の支援

遺族会活動の支援と尾鷲市戦没者追悼式の共催

尾鷲市戦没者追悼式 尾鷲市との共催

平成22年6月6日（日） 尾鷲市文化会館大ホール

参列者 250名

5. 苦情解決事業の推進

苦情解決体制の一層の充実を図り、第三者委員をはじめ地域住民からの苦情の汲み上げるとともに、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

①苦情解決体制の構築

- ・苦情解決責任者の設置 事務局長
- ・苦情受付担当者の設置 総務係長
- ・第三者委員の設置 4名委嘱

②苦情解決事業第三者委員会の開催（苦情報告）

日 時：平成 22年 7月 15日

場 所：尾鷲市福祉保健センター1階 ボランティア室

参加者 第三者委員 4名 事務局 2名

③苦情解決事業第三者委員研修会への参加

日 時：平成 22年 8月24日

場 所：三重県津市 三重県障害学習センター大研修室

参加者 第三者委員 1名 担当職員 1名

④苦情件数 苦情総数（平成22年4月～平成23年3月） 1件

（平成21年度 2件）

苦情の内容	平成21年度	前年度
ケアの内容に関わる事項	0	1
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理・遺産・遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他（職員の言動・交通マナー）	1	1
本会以外への苦情等	0	0
合 計	1	2

2 地域福祉係

1. 赤い羽根共同募金運動の推進、基盤強化

民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者の協力を得て、募金運動を推進した。

(1) 一般募金運動（強化月間：平成22年10月1日から2カ月間）

(募金実績)

	平成22年度	前年度	前年比較
目標額	3,538,700	3,323,831	214,869
実績額	3,716,768	3,621,772	94,996
達成率	105%	109%	

(募金種別による内訳)

	平成22年度		前年度		前年比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別募金	2,419,947	5,028	2,422,561	4,985	▲2,614	43
法人募金	736,500	123	796,500	126	▲60,000	▲3
街頭募金	68,890	1	46,997	1	21,893	
(新規) 学校募金	31,389	3	—	—	31,389	—
職域募金	125,530	16	91,544	8	33,986	8
イベント募金	140,060	10	182,183	5	▲42,123	5
ハーフルベンダー	15,335	1	18,772	1	▲3,437	
募金箱・その他 (設置箇所数)	179,117 (15)	7	63,215 (13)	5	115,902	1
合計	3,716,768	5,189	3,621,772	5,131	94,996	54

(2) 募金配分金による事業の充実

① 情報提供・啓発事業～住みよい街づくり調査事業～

津市河芸町千里ヶ丘のサロン事業を視察し、活動の内容や情報の共有、わが町の今後の課題を学んだ。

視察日：平成23年1月30日（日） 参加者： 地区福祉委員7名

② 世代間交流事業（二次配分事業） 6団体 15万円助成

③ 障がい児者団体への配分金事業 1団体 5万円助成

④ 老人クラブ連合会（友愛訪問活動）への配分金事業 25万円助成

⑤おしゃべりほのぼのサロン事業（須賀利地区の開催を増やし、4箇所で開催）

市町 月	尾鷲 (第1)	尾鷲 (第3)	九鬼	早田	須賀利
4月	24	18	13	10	7
5月	22	19	11	19	5
6月	22	19	11	17	5
7月	19	19	11	19	7
8月	14	14	—	16	5
9月	19	16	14	19	7
10月	21	19	14	17	5
11月	—	21	13	16	6
12月	19	18	11	17	7
1月	17	15	12	13	7
2月	—	16	7	17	7
3月	17	—	12	18	7
のべ人数	194	194	129	198	75

(単位：名)

⑥福祉協力校援助事業の実施

(助成事業)

福祉協力校<小学校：7校、中学校：2校、高校：1校、特別支援学校：1校>に対し、福祉教育の活動への助成（22年度：1校5万円 11校に助成）を行った。

(福祉協力校連絡会議)

開催日：平成22年6月1日（火） 参加者： 11名

(福祉教育事業への協力)

・体験教室の開催

各種体験：車椅子体験、高齢者疑似体験、視覚障がい者・点字体験、職場体験

見学：センター見学

実施校：尾鷲小学校、宮の上小学校、矢浜小学校、賀田小学校、三木小学校、三木里小学校、尾鷲中学校

・その他の福祉協力校活動の推進・支援

各種福祉関係行事への参加・募金や収集活動・清掃や地域の高齢者との交流など、具体的な取り組みに対する調整と助言を行った。

(3) 活動強化のための企画の実施

共同募金運動発展モデル推進事業として、任意団体KODOMOとの共催で、赤い羽根イベントを開催した。

開催日：平成22年11月7日（日） 場所：熊野古道センター

2. 小地域福祉活動事業

(1) 地区福祉委員会の活動支援

①地区福祉委員会座談会の開催

地区福祉委員会と社協との信頼関係の再構築と各種支援の見直しのため、座談会を通して、現場の活動状況の把握、問題の発掘と早期解決に努めた。

日付	地区	参加数
6月7日	野地町	6
6月24日	古江町	9
7月14日	中村町	11
7月14日	早田町	8
7月15日	曾根町	8
8月30日	梶賀町	6
9月10日	三木浦町	5
9月15日	九鬼町	7
9月29日	三木里町	10
10月27日	宮ノ上座ノ下	13
12月2日	矢浜	6

(単位：名)

②地区福祉委員会連絡会の開催

小地域での住民同士の関係の大切さを再確認しながら、福祉委員同士の交流の意味を目的として開催。

第1回開催日：平成22年6月29日（火）

尾鷲会場（福祉保健センター） 参加者：31名

輪内会場（高齢者サービスセンター） 参加者：19名

内 容：日頃の活動を通して・社協会費のお願い・活動報告ほか

第2回開催日：平成23年2月23日（水） 参加者：38名

内 容：第1部：後期サロン、訪問活動助成金申請について
視察報告（千里ヶ丘サロン事業の視察報告）

第2部：衛生管理研修会（講師：三重県尾鷲保健所）

③活動助成金の交付

- ・前年度賛助会費から（社協会費50%）の助成
- ・基本助成（2万円）および下記の各活動に伴う助成金交付

④高齢者ふれあいサロン事業、あったかふれあい訪問活動への協力（単位：回／名）

委員会名	ふれあいサロン活動		あったか訪問活動	
	回数	のべ人数	回数	のべ人数
三木浦地区福祉委員会	4	447	2	243
賀田地区福祉委員会	—	—	2	170
矢浜地区福祉委員会	—	—	2	330
倉の谷地区福祉委員会	2	60	2	157
中村町地区福祉委員会	2	61	3	217
三木里地区福祉委員会	1	65	3	252
古江地区福祉委員会	1	128	2	250
梶賀町地区福祉委員会	3	131	4	190
坂場地区福祉委員会	—	—	4	283
曾根地区福祉委員会	3	108	2	122
九鬼地区福祉委員会	2	136	1	180
宮ノ上座ノ下地区福祉委員会	9	290	2	120
泉地区福祉委員会	1	30	2	70
早田地区福祉委員会	3	74	3	182
須賀利地区福祉委員会	—	—	3	219
野地町地区福祉委員会	2	50	2	101
新田町地区福祉委員会	2	30	3	215
22年度	ふれあいサロン活動	13地区 35回	1,610名	
	あったか訪問活動	17地区 42回	3,301名	
前年度	ふれあいサロン活動	12地区 30回	1,046名	
	あったか訪問活動	19地区 50回	3,885名	

⑤視察研修

津市河芸町千里ヶ丘のサロン事業を視察し、活動の内容や情報の共有、わが町の今後の課題を学んだ。

視察日：平成23年1月30日（日） 参加者：7名

⑥安心できる委員会活動の支援のために

様々な地域活動で食品を取り扱うことが多いことから、職員自らが、県の主催する食品衛生管理者研修会に参加し、地域における食品の取り扱いにかかわる知識を学んだ。

(2) 地区懇談会の開催

地区福祉委員会のない町において、地域と社協とのつながりを深めていくとともに、地域の現状を聞き、今後の地域課題を見つけるために開催した。

『中井町・港町合同地区懇談会』

開催日：平成23年3月9日（水）

参加者：民生委員1名、老人クラブ会長1名、社協協力員2名、自治会長1名

内 容：社会福祉協議会の概要（社協とは）、日頃の生活を通して感じること

(3) 地域交流事業（地域研修会：シニア事業）の実施（三重県社協共催事業）

地域のシニア世代（60歳以上）の方々に対して、いきいきと生活できるように、健康づくりに着目して、研修会を行った。

開催日：平成22年9月6日（月）、10月13日（水）の連続2回講座開催

内 容：「知っておきたい 暮らしのマナー講座」 参加者：18名

講 師：前田 衣代 氏

3. ボランティアセンター事業の実施

(1) ボランティアセンターの効果的な運営

①市内ボランティア団体への情報啓発

②団体の活動しやすい、相談支援体制やボランティア団体の環境づくり

③安全な活動環境の支援のため、ボランティア活動保険および一事業開催ごとの行事用保険への加入促進と保険料の一部助成（22年度：加入件数844名）

④ボランティアグループへの助成実施（22年度：1団体2万円を10団体に助成）

⑤福祉施設協働事業の実施

施設の夏祭り行事への参加協力、紀北作業所夕涼み会（平成22年8月19日）

(2) コーディネーターとしての技術の習得

県社協が主催するボランティアコーディネーター研修会（年5回）に出席し、コーディネーターとして知識と技能を修得した。

そのほか、三重県の主催する、ユニバーサルデザイン研修会に2名出席し、福祉教育に必要な知識を習得した。

(3) 各種行事の開催

子どもたちの夏休みを活用して、福祉上映会を開催し、社会福祉協議会事業のPRを行った。また、この上映会を成功させていくために、地域の個人ボランティアや、高校生ボランティアを巻き込み、開催することができた。

①夏休みこども行事（防災教育事業）

開催日：平成22年7月22日（木）あそ・ぼうさい 49名参加

②福祉上映会の開催

開催日：平成22年7月30日（金） 午前午後の2回公演を実施

参加者：午前92名、午後82名 参加

内容：「カールじいさんの空飛ぶ家」

ボランティア数：19名（一般個人ボランティア、高校生ボランティア）

③年末こども行事会

開催日：平成22年12月19日（日）

内容：福祉映画上映会「パンダコパンダ」、もちつき大会

参加者：65名参加

(4) 個人ボランティア獲得にむけた啓発活動

様々な行事等の開催を通じて、個人の趣味等を様々な行事や地域活動に生かしてもらえるよう働きかけ、登録をしてもらうことができた。 登録者 2名

(5) 各種研修会への参加

社協ワーカー研修	（全日程5日間）	1名参加
中堅職員研修	（全日程2日間）	2名参加
ボランティアコーディネーター養成講座	（全日程6日間）	1名参加
みえ防災コーディネーター育成講座	（全日程13日間）	1名参加
食品衛生管理者研修会受講	（全日程1日間）	1名参加

4. 福祉教育事業の推進

①福祉学生の育成支援

- ・社会福祉士学生の社会福祉現場実習の受け入れ 1名
- ・24年度から社会福祉士実習受け入れに関する要綱の変更に伴って、その移行期間として、実習生受け入れに関わる基盤の見直し指導規約の準備を開始。

5. 社協会員制度の推進

理事・評議員、民生委員児童委員、地区福祉委員、社協協力員などとの連携により、社協活動への参加・協力を呼びかけ、会員の確保に努めた。

	人数	金額	前年度
賛助会員	1,547名	1,720,000円	1,714,000円
特別会員	54名	375,000円	400,000円
団体等	1団体	20,000円	20,000円
総数	1,602名	2,115,000円	2,134,000円

6. 総合相談の維持

(1) 一般相談 各部門担当による、常時相談、電話相談、訪問相談

※高齢者・障がい者相談＝各相談センターにて実施集計

(2) 専門相談 法律相談（弁護士による）：毎月第3水曜に実施（年間相談件数37件）

結婚相談：相談件数の減少に伴って、11月6日をもって事業終了。

7. 貸付事業（自立更生のための貸付事業）平成23年3月末現在

(1) 生活福祉資金（県社会福祉協議会）の貸付状況

① 22年度中の完済数：5件（うち教育支援費4件、緊急小口資金1件）

② 22年度中の新契約数：2件（うち緊急小口資金1件、教育支援費1件）

③ 継続返済数

・教育支援費 12件

・福祉資金（障がい者自動車購入費）2件（障がい者住宅改修費）1件

・緊急小口資金 1件

・更生資金 1件

(2) 福祉金庫の貸付（平成23年3月末現在）

① 新規緊急貸付 4件（前年度5件）

② 返済滞納者および保証人に対する、現状の生活状況の返済へ意思等の相談助言を訪問先等によって実施し強化を図った。

未納者の状況	人数
全返済滞納者数	26名
① 指導直後、本人や家族、保証人によって償還し、完了した方	2名
② 指導によって当会として、返済が可能な状況と判断できた方	16名
*②のうち「定期償還を約束し、毎月決まった日に集金もしくは来所で償還している方」	(8名)
*②のうち「定期償還を約束したが音信不通や諸事情により中断してしまった方」	(8名)
③ 保証人によって定期償還が開始された方	1名
④ 体調不良や諸事情により当会が了承して、経過観察又は保留の方	4名
⑤ 詳細が全く掴めず、調査中の方	2名
⑥ 所在が明らかになったが、かなり遠方なので、今後支援方法を検討する方	1名

上記の①②③等によって、指導強化を開始した23年1月～3月末まで

返済総額 238,000円

8. 援護事業の実施

(1) 災害に対する援護事業

火災被害への対応 1件（支給品：毛布・タオルケット各2枚、日用品1箱）

(2) すこやか事業（児童支援事業）

保育園・幼稚園児のすこやかな成長を願い、5月5日のこどもの日に

ちなんだ菓子の贈呈した。 対象者 537名（前年度552名）

(3) 小学校卒業記念品贈呈事業（母子父子支援事業）

母子父子家庭小学校卒業生に対する激励 対象者 33名（前年度 37名）

9. 日本赤十字事業への協力

自治会・奉仕団（婦人会ほか）などの協力で、次のように赤十字運動を推進した。

(1) 募金運動の推進 平成22年5月1日から5月31日までの1ヶ月間実施

	平成22年度	前年度	前年比較
目標額	3,211,000	3,255,000	▲44,000
実績額	2,760,000	2,775,000	▲15,000
達成率	85.95%	85.25%	

(2) 赤十字救急法の開催 平成22年7月24日・25日・31日 計3日間 受講生：18名

(3) 災害用発電機の配備

平成23年3月10日（木）

日赤三重県支部において、災害発生時の避難所等における維持的な電力供給のために必要な発電機1台の配備を受けた。

10. 福祉団体活動支援

当事業者団体の「身体障がい者互助会」の年間活動行事の充実や活動強化に協力をした。また、今年度から、新たな当事者団体である「はあと畑」の活動相談や支援協力をおこなった。

11. 各種大会の開催

(1) 第22回尾鷲市社会福祉大会の開催

開催日：平成22年11月13日（土）

場 所：尾鷲市中央公民館3階講堂 参加者数：約150名

〔第一部：顕彰〕

- ・尾鷲市長表彰

民生委員・児童委員功労者	5名
社会福祉施設・社会福祉団体功労者	5名

- ・尾鷲市社会福祉協議会長表彰

民生委員・児童委員功労者	9名
社会福祉施設・社会福祉団体功労者	6名

〔第二部：実践発表〕

- ・尾鷲市民生委員児童委員協議会 会長 山寄 章司氏
「災害時、一人も見逃さない運動における要援護者支援の取り組み」
- ・就労継続支援 A 型事業所やきやまふあーむ 指導員 大谷 雅樹氏
「やきやまふあーむの活動報告」
- ・東紀州くろしお学園尾鷲分校 教諭 村島 洋子氏
「東紀州くろしお学園尾鷲分校の学校生活の様子」

(3) 尾鷲市ふれあいスポレク祭2010の開催

旧障がい者スポーツ大会を一転し、新たな形で開催し、地域の障がい者の地域交流の強化に取り組む体制を見直した。

開催日：平成22年10月23日（土）

場 所：東紀州くろしお学園尾鷲分校体育館

参加者：205名

内 容：各種目の実施、模擬店・販売

外部イベント「まりお姉さんとゆかいな仲間たち」

協力団体：市内ボランティア団体、市内福祉協力校、尾鷲市連合婦人会、

管内障がい者支援施設・作業所、民生委員児童委員協議会 ほか

1.2. 尾鷲市福祉保健センターの利用促進と効果的な運営

福祉・保健活動の総合拠点施設として、研修や交流、健康づくり、市民の社会参加の場として、市民が利用しやすい環境を整備し、センターの管理運営を適正に行った。

尾鷲市福祉保健センター利用実績 （単位：名）

	利用回数	利用数
4月	174	3,181
5月	162	2,334
6月	181	4,125
7月	170	3,978
8月	156	2,997

9月	169	3,780
10月	175	3,107
11月	173	3,279
12月	145	2,530
1月	148	3,037
2月	167	2,487
3月	175	3,241
のべ人数	1,995	38,076
前年度	2,029	44,597

(21年度は選挙回数が3回あったため増だった)

13. その他の事業

(1) 広報啓発活動の実施(市広報誌や新聞を通じた広報活動)

- ・社協だよりの発行(年4回、各12,000部)
- ・ホームページの作成

(2) 子育て支援事業

各関係機関を情報の共有と協働を図り、地域に住む子育て世代の住みやすい街づくりをめざすために行う。

①子育てグッズ 無料レンタル(チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド)

提供品数	レンタル品数
13品	8品

②子育て応援 リサイクル(自宅で不要になった物品の仲介)

提供品数	仲介した品数
26品	21品

③子育てママの仲間づくりや遊び場としての、児童コーナーの自由開放デー開催
第2土曜日(13:30~15:00) 第4月曜日(9:30~11:00)に実施

④各種行事の開催

パパママ安全講習会の開催(託児付講習会)

「万が一の子供の事故や急病に備えた応急手当」の講習会開催。

開催日:平成23年2月7日(月)開催

講師:日本赤十字社職員

参加者:8名 託児ボランティア協力:尾鷲市連合婦人会 6名

⑤福祉本・子育て情報コーナーの充実と絵本の貸出

1階の市民ロビーに情報コーナーを設置し、市内の子育て情報の周知、福祉本や絵本の貸出を行うなど、

⑥子育て担当者懇談会の開催

参加者：尾鷲市役所福祉保健課・生涯学習課、尾鷲民生事業協会、尾鷲市立尾鷲幼稚園

開催数：2回実施

1 4. 地域福祉権利擁護事業の受託実施

市内の関係機関からの相談を中心に、新規相談の積極的な対応を心掛けた。

実際の利用者とは、信頼関係の構築を継続し、利用者が安心できる適切な金銭管理・書類預かりサービスを実施した。

また、成年後見人制度を踏まえた支援が徐々に増し、対応をおこなった。

①平成22年度実績（平成22年4月～平成23年3月）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合 計	前年度
相談件数	122	27	46	41	236	258
新規契約	2	0	2	1	5	6
解約件数	2	0	1	2	5	9

②実利用者人数（平成23年3月31日現在）

	認知症 高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	前年度
契約件数	6	13	7	6	32	32

Ⅱ、総合相談・支援部門

1、地域包括支援センター

1、包括的支援事業

尾鷲市の高齢者が住み慣れた地域で、健康で生きがいのある生活を維持できることを目指して、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な支援を行なった。

(1) 総合相談支援

イ、総合相談窓口の設置

相談内容に応じたサービスや制度の利用支援・情報提供及び関係機関等の紹介を行なった。

相談実績：平成22年度 341件 前年度 315件

相談区分集計〈延べ件数〉

	介護・日常生活等	サービス利用等	医療に関する内容	所得等に関する	その他	苦情等	権利擁護に関する	合計
累計	280	120	9	25	7	18	15	474

ロ、地域ケア会議の運営

地域ケア会議の運営（6回開催）

	開催月日	参加人数	協議内容
第1回	5月25日	14	① 地域ケア会議委員委嘱状授与 ② 委員自己紹介及び所属機関についての紹介 ③ 尾鷲市の高齢者を取り巻くサービス環境について ④ ケア会議の進め方について
第2回	7月23日	9	① 地域包括支援センターの役割について ② 今年度の検討テーマについて ③ 今後の検討内容の協議
第3回	10月7日	11	① 認知症について（病状確認及び意見交換） ② 地域としての課題、地域ケア会議で検討していく内容について
第4回	11月26日	9	① 認知症で徘徊がみられる高齢者について ② 徘徊に関しての介護・見守りに関して意見交換会 ③ その他

第5回	H23年 1月21日	11	① 地域におけるネットワークについて（意見交換） ② 今後尾鷲市で構築すべき支援ネットワークについて ③ その他
第6回	3月25日	6	① 住民同士の見守り・声のかけ合いの基盤づくりについて ② 支援ネットワークづくりについて ③ その他

(2) 権利擁護業務

イ、高齢者虐待への対応・防止

① 高齢者虐待相談窓口の設置

基幹となる尾鷲市福祉保健課と共同で高齢者虐待についての相談窓口を設置

② 高齢者虐待相談の受理

平成22年度受理件数 13件（前年度 7件）

内訳（重複あり）	身体的虐待	6件
	心理的虐待	2件
	経済的虐待	4件
	性的虐待	0件
	介護放棄	3件

③ 高齢者虐待への対応

受理した虐待相談について、基幹となる尾鷲市福祉保健課とともに事実の確認や課題の整理、虐待解消に向けての提案及び関係機関への調整を行った。

④ 関係機関との会議

尾鷲市における高齢者虐待対応の体制整備のため、基幹となる尾鷲市福祉保健課と連絡会議を行い、対応の流れ、役割分担、今後の課題などの確認を行った。（平成22年6月28日に開催）。

⑤ 研修会

「高齢者虐待対応ソーシャルワークについて」

開催日：平成22年6月28日（連絡会議と同時開催）

講師：尾鷲市地域包括支援センター（社会福祉士）

ロ、認知症高齢者の見守り

認知症サポーター養成講座

	開催月日	参加人数	場 所
第 1回	7月 6日	34	尾鷲市中央公民館
第 2回	7月 6日	25	ディサービス海岸通り

第 3回	7月10日	12	ディサービス海岸通り
第 4回	7月25日	16	特別養護老人ホームあさひ
第 5回	8月 4日	38	紀北信用金庫本店
第 6回	9月 1日	55	輪内高齢者サービスセンター
第 7回	9月 9日	14	倉の谷集会所
第 8回	9月28日	32	賀田公民館
第 9回	9月28日	56	古江公民館
第10回	10月26日	14	九鬼公民館
第11回	10月26日	28	三木浦漁村センター
第12回	10月27日	35	早田公民館
第13回	10月29日	9	九鬼公民館
第14回	11月 7日	36	向井小学校
第15回	H23年3月23日	30	須賀利公民館
		434	

① 認知症に関する研修会

A) 若年性認知症に関する研修会

開催日：平成22年9月8日

会場：尾鷲市福祉保健センター4階多目的ホール

講師：(有)イトファーマシー沙羅グループ主宰 伊藤美知 氏

参加者数：41名（参加対象者：介護サービス関係者）

B) 認知症ケアに関する講演会

開催日：平成22年12月16日

会場：尾鷲市中央公民館3階講堂

講師：(有)イトファーマシー沙羅グループ主宰 伊藤美知 氏

参加者数：50名（参加対象者：一般）

② 徘徊高齢者実態調査

昨年度相談のあったケースに鑑み、「徘徊高齢者実態把握アンケート」を実施し、市内の徘徊における行方不明・交通事故のリスクが高い認知症高齢者の実態について調査を行った。

アンケート実施期間：平成22年6月1日～平成22年6月18日

アンケート回収率：77%（配布39件に対し30件を回収）

ハ、権利擁護制度等の活用

① 地域福祉権利擁護事業の活用

相談の結果、地域福祉権利擁護事業の利用調整（相談斡旋を含む）を行った
平成22年度 3件 前年度 3件

② 成年後見制度の活用

相談の結果、成年後見制度の利用援助（情報提供、申立支援、斡旋を含む）を行った
平成22年度 4件 前年度 3件

(3) 包括的、継続的ケアマネジメント支援

イ、ケアマネジャー支援

ケアマネジメント力を高める取り組みとして居宅介護支援事業所連絡会議において事例検討及び研修会を開催した。

居宅支援事業所連絡会議 (4回開催)

	開催月日	参加人数	内容
第1回	4月20日	16	① グループ討議（テーマ別に分かれての意見交換） テーマ（認知症、虐待、精神障害） ② 情報交換会 ③ その他
第2回	7月16日	21	① ケアプラン作成勉強会 ② 悪質商法・振込詐欺の注意事項及び対応の仕方について 講師：尾鷲警察署 生活安全課 尾崎 規文氏 ③ 情報交換会
第3回	11月12日	36	① 介護予防支援従事者向け研修会 講師：(有) WithAWill 市川 知律氏
第4回	H23. 1月20日	20	① 事例検討会 困難事例の事例検討会

居宅介護支援事業所のケアマネジャーが抱える困難事例等の相談支援を行なった。

件数：平成22年度38件 前年度35件

(4) 介護予防ケアマネジメント

介護予防事業、予防給付が効果的かつ効率的に提供されるよう、適切なケアマネジメントを行い、介護予防ケアプランの作成等必要な支援を行なった。

イ、要支援1・2の介護予防支援

予防プラン作成および給付管理数

平成22年度 合計2,466件 前年度 合計2,248件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
認定者数	50	66	64	68	39	55	
地域包括支援センター	141	140	145	151	154	150	
委託事業所	51	45	47	53	48	53	
合計	192	185	192	204	202	203	
	10月	11月	12月	H23. 1月	2月	3月	
認定者数	50	50	44	60	45	43	634
地域包括支援センター	152	158	157	150	152	150	1800
委託事業所	56	60	60	61	65	67	666
合計	208	218	217	211	217	217	2466

ロ、特定高齢者の介護予防支援

事業内容	参加人数	備 考
通所介護予防事業（運動器・うつ・認知症・閉じこもり予防）	12 (実10)	運動器10名参加、口腔器2名参加
訪問型介護予防事業	9	運動器パンフ配布者1名、 状況確認・健康指導8名
病院受診勧奨	1	認知症の疑いがあり、専門科への受診方法について情報提供・勧奨を行った。
電話での情報提供	96	
介護保険申請支援	1	状況確認時に介護保険申請をしていた者13名 (要支援8名、要介護5名、申請中1名)
合 計	119	

※（H21年度[12月・1月・2月]H22年度[9月・10月・11月] 特定高齢者決定者）

ハ、介護予防支援従事者への研修会の開催

	開催月日	参加人数	会 場
第1回	11月12日	36	市民文化会館

2、任意事業

(1) ケアプラン点検事業

紀北広域連合主催のケアプラン点検事業に主任介護支援専門員(2名)が2回参加した。

(2) 家族介護支援事業

要介護高齢者を介護する家族の精神負担の軽減と介護者同士の情報の交換を目的にした交流会の開催及び介護者及び介護職員を対象に介護技術についての研修会を開催した。

イ、介護者の会の開催

介護者の会

	開催月日	参加人数	内 容
第1回	8月25日	9	① 疲労回復効果のあるレシピを参加者同士で調理 ② 食改協の会員さんとの交流会
第2回	12月18日	50	① 認知症講演会
第3回	H23年 2月15日	7	① 介護おしゃべり会 ② ランチバイキングでの懇親会
第4回	2月20日	21	① 介護おしゃべり会 ② ゆる体操
合 計		87	

ロ、介護者の実態把握

要介護4・5と認定されている方を介護されている介護者(65名中22名)の介護状況等を聞き取り相談・助言及び連携支援を行った。

(3) 福祉用具・住宅改修支援事業

イ、福祉用具の利用支援

福祉用具の利用についての助言や購入支援を行った。

福祉用具購入支援者 平成22年 12名 前年度 12名

ロ、住宅改修の利用支援

住宅改修に関する助言や理由書等の必要書類の作成を行なった。

住宅改修利用支援 平成22年度 50名 前年度 13名

3、その他

(1) 研修会への参加

- ・ 地域包括支援センター職員研修
- ・ 各専門職に対する研修会等

(2) 会議への参加

- ・ 地域包括支援センター運営協議会
- ・ 東紀州地域包括支援センター連絡会議
- ・ 三重県地域包括支援センター連絡会議
- ・ 運営推進会議

地域密着型小規模特別養護老人ホーム：2カ所

認知症対応型共同生活介護：4カ所

- ・ 養護老人ホーム入所判定委員会

(3) 定例ミーティングの実施（包括支援センター内での打ち合わせ）

- ・ 新規相談ケースについての検討会を実施した。
- ・ 各自担当ケースについての報告・相談を行った。
- ・ 各事業の進捗状況の確認及び調整を行った。

(4)、困難事例等の検討会議の開催（行政機関との担当者会議）

- ・ 処遇困難ケースの検討会議を行った。
- ・ 虐待通報のあったケースの検討会議を行った。

2 紀北地域障がい者総合相談支援センター

I. 紀北圏域障がい者地域生活相談支援事業

1. 相談支援事業

「障がい者のライフステージに応じた生活を支援するために、福祉サービスの利用援助（情報の提供、日常生活の相談・援助等）を障がい者の身近な地域で行う。また、個人が尊重され、地域で安心した生活を継続できるようにするために、関係機関と連携を図り、障がい者の福祉の向上並びに自立支援を行う。」という基本方針のもとで、本人・家族および関係者からの相談を受け、訪問活動、来所相談、電話相談等を実施した。当支援センターの特徴として、地域に療育センターがないために実施しているすまいる教室で、幼少期からかかわりを持つことで、その後の相談につながりやすく、修学時期を終えて地域に戻る時に日常生活や就労等の支援がスムーズに継続されるメリットがあると考えられる。

今年度の相談者の実数は、昨年度より30名増加して尾鷲市・紀北町で173名であった。のべ件数は、「すまいる教室の来所人数」と「同行件数」が増えたものの、「訪問」「来所」「電話」は、少しずつ減って昨年度を下回る述べ件数となった。電話回数の多い利用者の入院やヘルパー利用により訪問ケースの問題が減少したことなど支援状況の変化によるものが大きい。また、地域自立支援協議会の運営部会やプロジェクト活動が増えたことも一つの原因と考える。今年度は、輪内地区での出張相談にも取り組んだ。

相談支援センターの活動の中で、社会資源の少ない地域のため、関係機関のネットワークや社会資源の開発に力を入れており、資源を活用して、サービスを調整し、生活を充実させていく本来の相談業務には、なかなか専念できない状況がある。また、相談者のニーズを多方面から適切に把握し課題解決するために、ケース会議の開催や個別支援計画の作成がより必要である。

① 年間相談者実数および登録者数

対象者	実人員	身体障がい	重症心身障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	その他
障がい者	117	24	1	30	57	3	0	2
障がい児	56	2	1	11	0	35	0	7
計	173	26	2	41	57	38	0	9
昨年度増減	(+30)	(-2)	(+2)	(+7)	(+8)	(+8)		(+7)
登録者数	120	16	1	28	30	38	0	7
増加・削除数	(1)	(1)						

② 支援方法（3名相談員分・生活支援員単独分・ピアサポーター支援のべ数）

対象者	訪問	来所相談+ すまいる教室	同行	電話相 談	電子 メール	その他	計
今年度実績	327	159+626	86	287	9	84	1578
昨年度実績	379	240+535	63	417	1	86	1721

③ 支援内容（のべ件数）

	述べ件数	尾鷲市	紀北町
福祉サービスの利用に関する支援	225	134	91
障害者症状の理解に関する支援	141	93	48
健康・医療に関する支援	123	89	34
不安の解消・情緒安定に関する支援	181	128	53
保育・教育に関する支援	86	43	43
家族関係・人間関係に関する支援	93	55	38
家計・経済に関する支援	48	26	22
生活技術に関する支援	80	51	29
就労に関する支援	121	72	49
社会参加・余暇活動に関する支援	932	545	387
権利擁護に関する支援	13	8	5
その他	21	17	4
計	2064	1261	803

④ ケース会議・個別支援計画作成状況

対象者	身体障 がい者	知的障 がい者	精神障 がい者	児 童(含 療育計画)	重症心身障 がい児・者	計
ケース会議のべ件数	10	8	14	37(37)	0(0)	69
うちサービス調整会議	2	5	5	0(37)	0(0)	12(0)
計画作成検討実数	2	0	4	0(37)	1(1)	7
個別支援計画作成数	2	0	4	0(37)	0(1)	6
昨年度会議件数	8	9	9	43(37)	0	69
個別支援計画作成数	1	2	3	0(37)	0	6(37)

※サービス調整会議とは、本人・家族およびサービスを提供する関係者がともにサービスの利用目的や回数など利用の仕方について話し合う場であり、個別支援計画を作る調整会議でもある。

(2) コミュニケーション支援

- ① 視覚障がい者 IT 講習会のファローアップ・・・今年度は、希望がなかった
- ② 点訳依頼のコーディネート・・・今年度は、要請がなかった。

2. 地域自立支援協議会の部会運営および実態把握・サービス開拓業務

平成22年度は、それまで行なってきた5部会を根本的に見直して、地域の問題解決につながるための活気のある部会活動をめざして、運営部会を立ち上げ、1年間とおして活動を行なった。それまでやってきた部会の中から「障がいをもつ当事者の方の声を聞いていないのではないか」という疑問(問題点)が出てきて、実際に当事者の方や支援者の方に呼びかけて、「みんなが声を出して、仲間と一緒に自分たちがつくる町～自分たちが動く～」プロジェクトを立ち上げた。まず、運営部会で、この地域の障がい者を取りまく課題について意見交換し、普段の支援活動で感じたり思ったりしている意見を出し合うことで、目的や現状を共有することから始め、その方法で、当事者や支援者を含めたプロジェクトを表のとおり、6回行った。そして、当事者・家族・支援者のそれぞれの願いや希望、心からの気持ちを出し合ってもらった意見を「くらし」「相談・ネットワーク」「セーフティネット」などに分類した。意見から導き出す課題の解決策の検討を今後進めていく予定である。

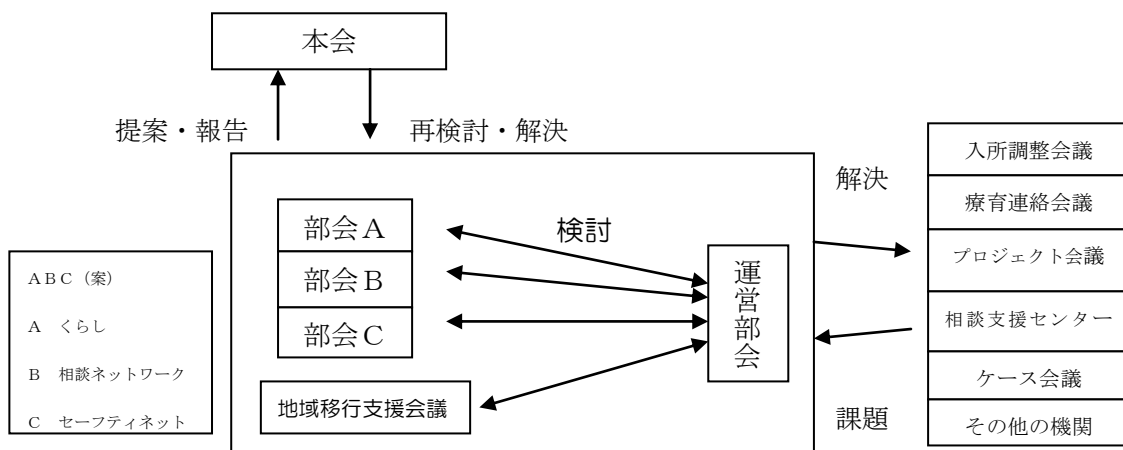
平成22年度 プロジェクト

会議	日時・場所	メンバー(人数)	内容
第1回 プロジェクト	6月26日 紀北広域連合	当事者 (10) 保護者 (16)	A～Dの4グループに分かれて意見を出し合う。 (A～C:保護者 D:当事者) 内容は地域の課題について、個々の気持ちの「 発散 」。今回は会議の雰囲気慣れる目的もあった。
第2回 プロジェクト	7月31日 紀北広域連合	当事者 (6) 家族 (10)	A～Cの3グループに分かれて検討を行う。 再び内容は地域の課題について、個々の気持ちの「 発散 」(前回とはメンバーが異なる)。会議の雰囲気慣れる目的で、話し合いを行った。
第3回 プロジェクト	8月28日 尾鷲市 福祉保健 センター	当事者 (9) 家族 (10) 支援者 (3)	第1回・第2回で上がった意見を分類した。 自由に意見を言う雰囲気で会議を進めた。個々の気持ちの発散し合い、自分たちが主体的に関わって行く気持ちを高める。

第4回 支援者 プロジ ェクト	9月15日 尾鷲市役所	ヘルパー (11) 作業所 (10) 学校 (4) ボランティア(2) 相談業務 (1)	支援者の思いを聞き、課題の 発散 を行う。 4グループに分かれて、付箋記入し、カテゴリーに仕分ける作業。 課題については当事者のものと同様、「くらし」・「居場所」・「仕事」などが上がった。 その他「支援者の連携」「研修」など。
第5回 合体プ ロジエ クト①	11月20日 尾鷲市 中央公民館	当事者 (7) 家族 (9) 支援者 (10)	当事者・関係者すべて合同で1～4の意見をもとに、4グループに分かれて、 紀北地域よいとこふえすた(紀北地域の強みの部分を発表する) を行う。 次回に向けて希望のテーマのアンケート(複数選択式)を行う。
第6回 合体プ ロジエ クト②	H23年 1月15日 まんどろ (紀伊長島区)	当事者 (3) 家族 (4) 支援者 (10)	また、当事者・家族・支援者の混合でテーブルにつき、話し合いを行う。初の参加者多数。 前回のアンケートをもとに、3つのテーマに分かれて検討。 初の試みとして、紀伊長島区で行った。

【自立支援協議会のイメージ図】

- 本 会：全体報告と確認の場。長期目標として取り組むものに関しては、福祉計画等へ協議会の意見を反映していく役割。
- 部 会：それぞれのテーマに沿った地域課題・ニーズ等について方向性を見出し、それに対する様々なアイデアや事業案を協議する場。
- 運営部会：各部会の相談・ニーズ・課題等の具体的な解決策とその優先順位、役割分担などを整理、検討する役割。



3. 生活支援ワーカーの活動

紀北地域障がい者総合相談支援センターが尾鷲市にあるということで、紀北町に生活支援ワーカーを配置し、情報収集と一次相談およびサポートの役割を果たしてきた。また、支援センターの紹介やPRする活動、ヘルパーとの連携窓口などを担い、今年度は、幼児、視覚障がい者の方、高次脳機能障がいの方などを支援センターにつなげた。

ヘルパーの人員不足のため、派遣は今年度をもって打ち切りとなったが、紀北町担当業務を引き継ぎ、嘱託職員が増員されることになり、今年度の同行訪問は10件であった。

相談ケースの紹介とフォロー	3件
精神障がい者サロン	7回
教室活動支援	15回
カンファレンス・部会	11回
生活交流会・スポーツ大会	5回
研修および準備	9回

4. ピアカウンセラー・ピアサポーター活動支援事業（自主事業）

平成19年度および平成20年度に養成したピアカウンセラー・ピアサポーターが地域で暮らす障がい者に対して、支援活動を行うための体制づくりや助言を行い、さらには、社会資源の少ない紀北地域での地域生活支援の担い手として定着させた。また、本人にとっては就労の機会となった。

今年度は①月1回程度、支援センターの準スタッフとして活動する

②紀伊長島での日中の居場所づくりとして、すずらんサロンの世話人をする。

ということに取り組んだ。

すずらんサロンは、第2火曜日の午前10時から午後2時半まで、東長島公民館で実施。世話人と利用者を合わせた当事者の参加は11回で27名、平均2.5名だった。世話人は、当日の進行や参加者への気配りを行い、終了前に日誌を書き、次回の献立や午後の内容を決めた。

5. ゴールド人材センターの活用

障がい者の臨時的かつ短期的な就業の機会を提供することにより、障がい者の自立と社会参加を支援する目的で活動している「ゴールド人材センター」の登録者に仕事を発注した。登録者：1名（精神障がい）、仕事の発注：2回（受診付き添い業務）

内容的には、ピアサポーターと同様の活動であった。

ゴールド人材センターは、平成22年度を持って、三重県の委託事業は終了したため、新しい登録は行わなかった。このノウハウを今後の就労支援やピアサポーター活動につなげたい。

6. 各種教室や当事者会の活動支援

当事者及び家族の活動支援として、「就労支援サロン はあと畑」の開設準備に協力した。福祉保健センターのロビーと配膳室を使って、会員の昼食を作り、障がいのあるメンバーが接客の訓練を実施するサロンで、来年度から週に1回月曜日に開設される。

また、平成22年度の各種教室や当事者会を下記の通り実施した。

① 元気会（視覚障害者リハビリ教室）

月2回 第2、第4金曜日の午後、尾鷲市福祉保健センターにてリハビリ教室を開催し、視覚障がい者の方々の運動を支援した。イチゴ狩りなどの外出行事も行った。

開催22回 のべ参加人数 60名（実人数 5名）

② 歩行訓練（社会参加事業で実施）

月1回 歩行訓練士による生活訓練が必要な視覚障害者に対して、白杖を使った歩行訓練を行った。パソコン、点字の指導も行った。

開催12回 （のべ 16名）（実人数 3名）

③ ウィークエンドサークル

月1回 原則第4土曜日に、当事者活動を実施した。ヘルパーを利用して参加している方も多く、土日の日中活動の場として、定着している。

開催10回 のべ参加人数235名

（知的192名、身体17名、精神12名、児童14名）

実人数 55名（知的42名、身体3名、精神4名、児童6名）

④ フラワーアレンジメント教室

月1回 原則第4水曜日に、尾鷲市福祉保健センターボランティア室にて、池田比早子先生に依頼して実施した。年に一度、福祉保健センターロビーにて作品発表をしている。

開催12回 のべ参加人数 128名

⑤ 音楽教室

月1回 原則第2土曜日に、尾鷲市福祉保健センターにて、癒しの会主催で、音楽療法士の福田朝子先生に依頼して実施しており、協力を行った。

開催12回 のべ参加人数 202名

⑥ おもちゃ図書館

月1回 第2土曜日に、障がい児等の遊び場の開放とおもちゃの貸し出しを行った。

開催11回 のべ利用人数 104名（うち障がい児44名）

⑦ その他

尾鷲市・紀北町の「障がい者スポーツ大会」、紀北町の地域交流会、くろしお学園運動会、紀北作業所夕涼み会等に参加した。

はあとの会活動に協力参加した。 年間12回参加（のべ80名）

Ⅱ. 障がい児等療育支援事業（三重県委託事業：尾鷲市社会福祉協議会受託）

平成22年度は、昨年にひきつづき、「すまいる教室」の充実とコーディネーター活動の定着を中心に取り組んだ。風の広場は、尾鷲市（福祉保健センター）だけでなく、紀北町（加藤小児科）でも実施した。発達障がいの早期対応の取り組みとして、尾鷲市の保健・福祉・教育の担当者からなる「チームおわせ」の保育所巡回相談には、引き続き参加した。

・すまいる教室の充実の内容としては、

- ① カンファレンスや運営会議によるスタッフの視点の統一
- ② 言語聴覚士による指導の継続
- ③ 風の広場事業による療育内容の充実
- ④ 療育連絡会議の開催による「すまいる教室」の周知と協力依頼
- ⑤ 関係機関訪問による連携の充実
- ⑥ 療育物品の活用

・障がい児担当コーディネーター活動の定着の内容としては、

- ① プロジェクト活動等による地域生活の問題点の把握と検討
- ② 福祉サービスの利用相談の対応
- ③ 乳健委員会への参加による支援対象児の把握
- ④ チームおわせへの参加
- ⑤ 草の実検診やなでしこ重心通園事業への参加とその紹介
- ⑥ 個別療育・音楽教室・絵画教室などの地域資源の活用状況の把握
- ⑦ おもちゃ図書館活動の推進

すまいる教室の参加状況

	実人数	のべ人数
尾鷲	23	364
海山	8	116
紀伊長島	7	146
計	38	626

相談利用者の年齢（H23年3月時点）

	人数
～2歳未満	3
2～3歳未満	5
3～4歳未満	5
4～5歳未満	3
5～6歳未満	5
6～7歳未満	8
7～10歳未満	7
10～12歳未満	8
12～18歳未満	11
計	55

相談利用者（すまいる教室含）の障がいの状況

主に身体障害	2
主に知的障害	11
広汎性発達障害	35
その他	7
計	55

Ⅲ. 就業・生活支援事業（三重県委託事業：紀北作業所受託）

公立の知的障がい者授産施設である紀北作業所を中心に、地域の3障がいの就業・生活支援として、一般就労支援の他、資格取得や職場体験の支援・就労のための生活支援等を実施している。平成22年度は、就労継続A型およびB型事業所を含めた障がい者の就労支援に取り組んだ。就労に関する全般の相談を広域で実施し、紀北地域の障がい者就労の促進に努めた。

Ⅳ. ジョブサポーター事務局運営事業（三重県委託事業：尾鷲市社会福祉協議会）

三重県が指定したジョブサポーター養成講座を修了した者が、有償ボランティアとしてジョブサポーター活動を実施することを支援し、障がい者の雇用促進、職場定着を図る。具体的には、ジョブサポーターの派遣事務、活動支援、打ち合わせ会議の開催、支払いなどを行う。

平成22年度のジョブサポーターの事業所等への派遣回数は3名の障がい者に対して2名のジョブサポーターがのべ22回出向いて指導や調整を行った。今年度は、ジョブサポーターの活動を充実させることと、事業所の開拓をするために、「しごとの体験事業」を計画したが、ジョブサポーターの減少により、実施できなかった。

V. 地域移行支援事業（退院促進事業）（三重県委託事業：熊野病院受託）

精神障がい者の長期入院者の中で、環境を整えば地域生活が可能である方々の地域生活への移行を支援する。紀北地域では、熊野病院オレンジが受託し、そのコーディネーターと地域移行推進員が、週に3回活動をしている。

今年度の活動状況としては、新規登録者が2名あり、前年度からの登録者数9名となった。その中で、退院は3名（在宅0名、共同住居2名、福祉ホームB型1名、再入院1名）であった。現在、退院支援中が7名、地域移行および定着支援中が3名、支援修了が2名である。

また、今年度は、地域移行連絡協議会で地域の受け皿として、グループホーム設立の話し合いを持ち、具体的な検討に入っている。

・活動内容としては

- ①病院訪問支援（面談など）
- ②外出同行支援（買い物、公共交通機関利用など）
- ③福祉施設等見学利用同行支援
- ④精神部会への参加
- ⑤地域移行支援協議会の開催

・来年度以降の課題としては

- ①地域移行支援協議会の中でグループホームの設置に関する検討や日中の活動の場の確保などの検討を続ける。
- ②地域でのネットワークを強化し、緊急時に早期に対応できる体制を整備する。
- ③個別支援会議を開催し、情報・支援計画の共有をはかる。

VI. 日中一時支援事業（尾鷲市委託事業：尾鷲市社会福祉協議会）

夏休み等の長期休暇において、家庭外での居場所が必要な障がい児に対して、日中一時支援サービスを提供する。今年度も、夏休みだけでなく、冬休みや春休みも実施した。

午後12時30分から4時30分（準備・片づけを含む）、重度障がい児童対象。
利用者の1割負担実施。（1日300円）。内容は、預かり保育。
今年度の利用者は、中学生～高校生の6名（必要に応じて、週1回～5回利用）

Ⅲ 介護サービス部門

1 居宅介護支援事業所

介護保険の指定居宅介護支援事業所として、居宅での介護サービスやその他の福祉サービス、保健医療サービスが適切に利用できるよう、利用者自身の立場でその有する能力に応じて、自立した生活を送るための公正中立な支援を行った。

(1) 職員体制

介護支援専門員 8名（専任 7名、兼務 1名）
事務職員 1名
(計9名)

(2) 業務内容

- ①居宅サービス計画（ケアプラン）の作成
- ②介護保険要介護・要支援認定申請代行
- ③利用者、サービス事業者との連絡調整
- ④介護に関する相談・助言
- ⑤その他の苦情や問い合わせ
- ⑥介護保険外の福祉サービスや福祉制度の利用援助
- ⑦介護保険施設への紹介
- ⑧国保連への給付管理及び介護報酬の請求（訪問介護・訪問入浴・通所介護）

(3) 申請実績

申請者数	平成22年度	前年度
介護保険新規申請者数	30名	37名
介護保険更新申請者数	281名	261名
予防給付新規申請者数	9名	5名

(4) 住宅改修支援事業請求実績

事業名	平成22年度	前年度
住宅改修支援事業	3名	0名

(5) 月別請求額

居宅介護

提供月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	210	204	213	200	198	203
決定金額	3,052,500	2,970,000	3,104,500	2,904,500	2,896,500	2,958,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
196	201	201	197	190	198	2,411
2,851,000	2,919,000	2,936,500	2,872,500	2,746,000	2,901,000	35,112,000

※前年度 2,616件 37,725,000円

※月遅れ請求分は含まない。

介護予防

提供月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	8	7	5	7	6	8
決定金額	35,460	28,840	20,600	31,340	24,720	37,960

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	12	12	10	11	10	107
50,320	54,440	49,440	41,200	47,820	41,200	463,340

※月遅れ請求分は含まない。

新規申請者数と更新申請者数の合算が請求（給付管理）件数と差があるのは、申請業務の代行のみや住宅改修、福祉用具購入のみで、請求に結びつくサービスを利用していない利用者が多いため。

請求件数が昨年対比約93%で減となっています。前年度まではほぼ横ばいでしたが、22年度になってから新しいグループホーム、小規模特別養護老人ホームができたことにより中重度の要介護者の入所による減少が続いたのが要因。

居宅支援事業所は、要介護者の在宅生活を支援、継続を目的としているが、現在の介護保険制度は在宅サービスの制限が多く、本人や介護者の負担が大きくなっており、施設入所を前提とした契約が増えたことが、施設を持たない社協への新規依頼の減少につながっていると考えられます。また2年ほど前から認定審査会の判定も厳しくなり、要介護認定が要支援に下がる利用者が増えたことにより減少したことも要因のひとつと考えられます。

2 訪問介護事業所

1. 介護保険対象の居宅介護サービス事業の実施

(1) 訪問介護・介護予防訪問介護

介護保険の指定訪問介護事業所として、介護や支援が必要な方を対象に、自宅にホームヘルパーが訪問し、身体介護や生活援助のサービスを提供して在宅での生活の支援を実施した。

18年度以降、利用者の減少は続き、介護収入も前年度を下回った。

①職員体制

職 種	常 勤	非常勤	職務の内容
1. 管理者	1	0	管理業務
2. サービス提供責任者	8	0	訪問介護サービスの調整
(1) 介護福祉士	8	0	
(2) ヘルパー2級課程修了者	0	0	
3. 訪問介護員（ホームヘルパー）	12	48	訪問介護サービスの提供
(1) 介護福祉士	11	17	
(2) ヘルパー1級課程修了者	0	0	
(3) ヘルパー2級課程修了者	1	31	
4. 事務職員	1	0	

②サービス内容

- ・身体介護：食事介助、入浴介助、排泄介助、体位変換、通院介助、その他身体介護
- ・生活援助：調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- ・身体介護と生活援助の組み合わせ
- ・通院等のための乗車または降車の介助

③訪問介護月別実績（月遅れ請求分は含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	146	131	142	126	135	130
決定金額	5,925,260	5,368,040	5,799,360	5,222,460	6,032,720	6,110,330

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
119	122	127	116	116	116	1,526
5,727,890	5,918,600	6,011,300	5,384,400	4,551,060	4,709,360	66,760,780

※ 前年度 請求件数 1,791 件 請求金額 67,654,240 円

④介護予防訪問介護月別実績（月遅れ請求分は含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	11	11	11	10	10	10
決定金額	163,500	177,840	165,500	123,400	123,400	123,400

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
11	13	15	14	14	16	146
137,740	221,940	242,620	176,760	172,760	226,120	2,054,980

※ 前年度 請求件数 172 件 請求金額 2,633,900 円

2. 障害者自立支援事業

(1) 障害福祉サービス

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービスの提供では、居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各事業を実施。

月別単位数（実績月）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	28	31	30	28	31	29
決定金額	562,260	735,740	720,150	748,460	704,600	717,180

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
32	30	33	32	29	29	362
769,580	757,250	798,110	817,750	686,890	763,780	8,781,750

※ 前年度 利用件数 367 件 利用金額 8,349,590 円

3. 生活支援サービス「あんしん」(保険外サービス)と一般乗用旅客事業の実施

17年度から生活支援サービス「あんしん」を実施。訪問系サービスの介護保険外事業の一環として、生活支援サービス「あんしん」と18年度から一般乗用旅客事業として、ケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を実施している。

あんしん月別実績

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	21	21	16	18	19	24
決定金額	81,250	76,500	70,500	73,500	82,625	84,750

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
22	18	21	23	22	22	247
84,875	72,250	78,500	86,000	79,500	81,500	951,750

※ 前年度 請求件数234件 請求金額957,625円

運行利用料月別実績

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	119	123	121	114	119	112
決定金額	231,440	170,260	217,000	193,420	202,290	214,770

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
117	114	111	101	110	104	1365
243,020	202,340	218,530	184,500	181,070	180,030	2,438,670

※ 前年度 請求件数1,503件 請求金額2,679,250円

3. 訪問入浴事業所

(1) 訪問入浴・介護予防訪問入浴

介護保険の指定訪問入浴事業所として、看護師や介護職員によって主治医の注意事項を守りながら、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。

訪問入浴介護は重度の要介護者が多いため、入院、死亡などで利用者が激減し、延べ利用人数、収入とも減少した。通所系サービスの普及など、介護サービスの多様化で入浴に対するニーズも変化しているものと思われる。

①職員体制

職 種	常 勤	非 常 勤
1. 管理者	1	0
2. 訪問介護員		
(1) 看護師	1	3
(2) 介護員	0	5
(3) 運転手	2	0
合 計	4	8

②サービス内容

- ・ 血圧等の健康チェック
- ・ 衣類着脱介助
- ・ 浴槽への移動介助
- ・ 入浴介助
- ・ その他入浴に必要な準備

③訪問入浴介護月別実績（月遅れ請求分は含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	21	19	23	22	21	22
決定金額	1,019,200	917,280	1,177,320	1,117,370	1,223,040	1,223,040

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
18	18	20	20	20	20	244
939,010	866,320	967,280	1,044,680	935,260	1,181,070	12,610,870

※ 前年度 利用件数 271 件 利用金額 14,859,110 円

4、尾鷲社協デイサービス いきいき

1、介護保険対象の通所介護・介護予防通所介護事業の実施

(1) 通所介護・介護予防通所介護

介護に頼らない自立した生活を目指し、運動器の機能向上、口腔機能の向上のための事業を実施。器具を使った運動、器具を使わない運動など積極的に取り組んだ。

①職員体制

職 種	常 勤	非常勤	職務の内容
1. 管理者	1	0	管理業務
2. 生活相談員	3	0	通所介護の適正な運営
(1) 看護師	0	3	看護業務
(2) 機能訓練指導員	0	4	運動機能訓練の実施
3. 介護職員	3	2	通所介護の提供
(4) 介護福祉士	3	0	
(5) ヘルパー1級課程修了者	0	0	
(6) ヘルパー2級課程修了者	0	2	

②サービス内容

〈共通サービス〉

- ・身体介護・支援に関すること（排泄、移動など）
- ・生きがい生活支援（レクリエーションなど）
- ・送迎サービス
- ・日常生活における相談・助言

〈選択的サービス〉

- ・個別機能訓練サービス（通所介護）
- ・口腔機能向上サービス（通所介護）
- ・運動器機能向上サービス（介護予防通所介護）

③通所介護月別実績（月遅れ請求分含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	6	7	9	8	9	7
決定金額	201,350	195,180	271,100	281,820	245,090	200,330

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
5	7	6	8	7	6	85
162,000	179,550	142,410	160,710	169,710	202,710	2,411,960

前年度 利用件数 47 件 利用金額 1,841,960 円

④介護予防通所介護月別実績（月遅れ請求分含まず）

	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
請求件数	19	19	17	17	17	15
決定金額	588,310	566,560	494,330	536,330	513,080	462,600

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
20	23	21	19	22	23	232
592,550	693,770	620,040	566,560	644,530	672,020	6,950,680

※ 前年度 利用件数 186 件 利用金額 5,748,250 円

2、一般・特定高齢者介護予防事業の実施

(1) 一般高齢者介護予防事業

一般の高齢者向けのサービスを実施し、介護予防に対する普及、啓発に努めた。

(2) 特定高齢者介護予防事業

要介護状態・要支援状態にはないが、そのおそれがある特定高齢者向けのサービス。運動器の機能向上、口腔機能の向上のための事業を行った。器具を使った運動、器具を使わない運動等積極的に取り組んだ。

開催数/金額	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分
特定高齢者	4 120,000	4 120,000	4 120,000	3 90,000	5 150,000	3 90,000
一般高齢者	6 150,000	3 75,000	5 125,000	4 100,000	5 125,000	4 100,000

10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
3 90,000	5 150,000	4 120,000	3 90,000	4 120,000	3 90,000	45 1,350,000
4 100,000	4 100,000	4 100,000	4 100,000	4 100,000	5 125,000	52 1,300,000

※ 前年度 特定高齢者 開催数 23 回 690,000 円 一般高齢者 70 回 1,750,000 円

3、体力測定会の実施

定期的に体力測定会を開催した。

実施日	行事名	参加人数
6月19日	体力測定会	32名
11月6日	体力測定会	25名

4、研修会への参加

開催日	研修内容	主催者
6月23日	介護保険事業の監査について・介護保険事業の動向と通所介護事業の留意点について	県デイサービスセンター協議会
7月16日	ベーシックコースⅠ・Ⅱ（感染症・食中毒・職業倫理・個人情報保護について・コンプライアンス・リスクマネジメント）	県デイサービスセンター協議会
7月18日	デイサービスで活かせるレクリエーション	県デイサービスセンター協議会〔紀州地区〕
9月12日	認知症疾患の特有の症状と発生メカニズム～残存機能を利用したケアやリハビリの方法～	県デイサービスセンター協議会
11月21日	介護技術研修	県デイサービスセンター協議会〔紀州地区〕
12月5日	自立支援のデイサービスづくり	県デイサービスセンター協議会
3月13日	認知症について	県デイサービスセンター協議会〔紀州地区〕

5 通所介護事業所

要支援・要介護状態となった場合でも、自立した日常生活を送ることができるよう、日常生活上の世話や機能訓練を行うとともに、引きこもり予防や社会参加および介護をしている家族の負担軽減を図るために通所介護を実施した。また、尾鷲市から一般高齢者介護予防事業の委託を受け、一般高齢者を対象に介護予防の普及啓発に努めた。

(1) 職員体制（平成23年3月現在）

職 種	常 勤		非常勤		職務内容等
	専従	兼務	専従	兼務	
事務所長（管理者）	0	1			管理業務
生活相談員	0	4	1	0	利用者・事業者間の調整
看護職員	0	2	0	2	看護業務
機能訓練指導員	0	2	0	2	運動機能訓練の実施
介護職員	0	3	9	1	通所介護の提供
栄養士	1	0	0	0	給食栄養管理
事務職員	0	0	0	1	事務全般

(2) サービス内容

(ア) 入浴サービス（特別機械浴、一人浴、一般浴）

(イ) 送迎サービス

(ウ) 生活指導

- ・ 健康チェック
- ・ レクリエーション、創作活動
- ・ 運動器機能向上(個別機能訓練)サービス・口腔機能向上サービス

(エ) 食事の提供

(3) 月別請求額

介護予防通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	13	12	14	16	16	18
請求金額	480,310	453,060	507,560	583,570	583,570	659,580
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
18	19	17	15	15	15	188
681,090	729,850	632,330	556,320	556,320	556,320	6,979,880

通所介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
請求件数	44	42	41	36	36	37
請求金額	3,394,310	3,145,630	3,084,670	2,866,790	2,593,150	2,803,730
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
36	39	40	37	41	42	471
2,795,030	2,787,310	2,857,780	2,357,550	2,697,630	3,118,880	34,502,460

一般高齢者介護予防事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催回数	4	4	4	4	4	4
請求金額	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
延利用者数	42	38	45	46	41	48
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8	8	8	7	8	8	71
200,000	200,000	200,000	175,000	200,000	200,000	1,775,000
53	44	52	51	56	47	563

※ 通所介護、介護予防通所介護に関しては、月遅れ請求分含まず。

介護予防通所介護前年度請求件数	128件	金額	4,678,580円
通所介護前年度請求件数	554件	金額	43,323,900円
一般高齢者事業前年度延べ利用人数	441人	金額	1,200,000円

三重県デイサービス協議会に加入し、各種研修に参加してサービスと職員の質の向上に努め、自宅での生活の延長として要支援・要介護者を対象にデイサービスを提供した。

通所介護は利用者、収入ともに大幅に減少。介護予防通所介護は、利用者数、収入ともに前年度を上回ったが、介護保険事業収入は前年度から大幅に減少した。

また、22年度はサービス提供中の骨折事故が2件あり、サービス提供体制・業務管理体制に課題を残した1年だった。

IV 輪内高齢者サービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室

輪内地区の福祉の向上を図るため、次のような事業を行った。

- (1) 高齢者サービスセンターを利用した研修や催し

個人利用 : 0回 団体利用 : 3回

- (2) 社協業務の受付窓口としての機能

募金活動を行い、より住民に近いところでも社協活動を推進した。

5月 日赤募金 10月 共同募金

相談窓口業務として年間39件の相談を受け付け、市や介護保険関係事業所との連携を図った。

- (3) 施設の適正な管理・運営につとめた。

2. 輪内地区食の自立支援事業の実施（市補助事業）

生活支援型配食サービスとして、週3回（火、木、土）、「食事を作ることが困難な高齢者」を対象に、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食した。

対象地区	: 輪内一円（梶賀、曾根、賀田、古江、三木里、三木浦）
登録者数	: 32名 下記に地区別内訳（平成23年3月現在）
延べ配食数	: 3,607食
事業費	: 2,162,000円
(内市補助分)	: 698,000円

地区別内訳

（梶賀2、曾根2、賀田11、古江10、三木里5、三木浦2）

3. 輪内地区食の自立支援事業の実施（自主事業）

21年度から、食事を作ることが困難で、市の配食サービスの対象とならない住民に対して自主事業としての配食サービスを実施。梶賀の1地区で年間264食を配食し、108,000円の事業収入があった。